

吐魯番  
出土　回鶻文摩尼教徒祈願文の断簡

(圖版第八圖 參照)

此の断簡二葉は吐魯番から出土し、曾て新疆省に布政使として在任した王樹枏氏の手に歸したのであつたが、其の後轉輾して昨年我が京都帝國大學文學部東洋史研究室の所藏となつたものである。Aは紙幅五寸三分五厘、Bは五寸、薄紫色の細線で劃した闌内の寸法、Aは三寸、Bは二寸八分五厘であるが、然も兩片とも本來同一の書の断簡なることは疑無く、此の紙幅や闌内の寸法の相違は、B片が中央に於て切斷して兩片となり、その切れ目に於て三分五厘許りの紙面を失つたが爲に外ならぬ。現状に於てはその第七行目及び第十三行目を連接させて各々完存した一行であるかの如き觀を呈して居るけれども、これは此の文書を読み得ない人が試みた補綴であつて、此の儘では語を爲すものではない。必ず此の間にAとBとの闌内の寸法の相違、従つてまた紙幅全體の寸法の相違なるほぼ三分程の殘缺の存することを認めなければならぬ。A片もまた同様に中央に於て切れて居るけれども、これは幸に首尾の十行許りを完存して居つて、Bの如く左右兩片に斷割されてゐない。

かく此の兩片は同一の書の断簡であることは疑無いが、更に文義の上から考へると、兩者の間には直接の連絡があつて、もと一枚の紙面の左右であり、Aの右縁、Bの左縁を折目として表裏に摺み、其の反対の側を綴じたものであつたこと、普通の漢籍と同じであつたのが、其の折目から二つに切れて、今の状態になつたものであらうと思